

.....
題 言
.....

二種の井筒沈下工法

大河戸博士が最近發見になる井筒沈下工法が二種ある。一は井筒内注水法で、一は井筒連続沈下装置である。斯の如き進歩せる工法は三年に一度も發見されるものではない、本號此二編を詳報して記者は暑中の快汗を一層大にするものである。

一 平 時 に 8 ポ ン ド

廣井博士が大東岬に試験せられたる二の設備の内、本號に載せた波浪の空氣壓搾の試験は一平方呎につき8ポンドであつたこの事であるが、斯る實驗を是丈で打切らるゝのは惜しいものである。

河 川 工 事 の 圖

復興局の工事で河川工事は最も引立たない部類である、引立たない丈に工事としては大なる苦心がある、本號に於ては必ずしも其苦心の存する所を紹介するものではないが、掲載する處の圖中には充分參考たるものがある。

東 京 電 燈 の 一 成 効

斯界の注目を引きつゝある白石氏の送電線鐵塔基礎工法は本號に於て益々有益なる實驗の狀況に入つた、東京電燈株式會社として此の位の研究的成效は當然の事であるが、膨大なる資本を有せる他の各會社が技術的に無爲なるを反省せしむるに足るものである。

サンダーソン、サイクロン

岩石搾孔機の種類も澤山にあるが、サンダーソン、サイクロンは鐵道省の研究品として初めて使用せられしものである。

従來研究品なるものが實際研究せられずして葬られ、其眞價を發揮する迄に至らなかつたものが多い、機械を研究するには机上では勿論駄目な事で、心ある技術者が自ら現場に立つて自ら操縦しなければならぬ。心なき職工任せに、短日時の報告のみでは何等の役に立たない。

上越南線の工事に於ては常に斯る點を一新するに努めつゝあるは注目すべき事である。

コンクリート實行の機運

工事畫報が次號をコンクリート工事の研究號として特輯せんとの運動は期せずして斯道大家の賛成を傳し、最新最高の研究材料が蒐まりつゝある。

コンクリート知識を實地に徹底せしむべき最近の一大機運は實に工事畫報に依りて代表せらるゝ事となつたわけである。